

エキナセアの紹介

1. エキナセアとは

エキナセアは、キク科の植物で、アメリカ合衆国とカナダの中南部にしか見られない植物で、現在9種類の品種が確認されており、アメリカ東部はマサチューセッツ州からジョージア州にかけて、中西部は、モンタナ州からテキサス州にかけての地域で見られます。9種のうち7種までが比較的狭い地域で自然分布が見られ、2種は非常に稀にしか存在せず、アメリカ連邦政府が絶滅の危機に瀕している品種に指定されています。

エキナセアは、はるか昔から草原に住むアメリカ先住民が最も大切にしているハーブの一種です。

アメリカの民族植物学研究者の調査では、先住民族は、解毒剤、のどの痛みや歯茎のはれ、歯痛、口内炎、へんとう炎、関節炎、腹痛、はしか、リウマチ、天然痘などの緩和・治療にエキナセアを利用したと記録しています。

エキナセアは、19世紀末から20世紀前半にかけてアメリカの医者が最もよく購入するアメリカ原産の薬草となりました。

現在、アメリカでは、エキナセアは健康機能食品として取り扱われ、アメリカの健康業界紙「Whole Foods」の調査によると、全米ハーブ商品の売り上げの10%、約3,000万人が利用しています。

19世紀末、エキナセアはヨーロッパで栽培が始まり、薬理研究が進められた結果、有効かつ安全な感染症の治療薬として認知されました。免疫系を非特異的に刺激するため、体の防御機能が低下した場合にかかりやすい風邪や感染症、皮膚病治療や予防に、また、傷の回復力を高めることに有効であると考えられています。

特に、ドイツ政府は、エキナセアをハーブ薬品として承認し、ドイツ国内に流通しているエキナセア商品のラベルには、「免疫活性効果があり、風邪及び呼吸器系の慢性的な炎症の治療に有効」という効能が明記されています。また、エキナセアの成分を研究して、数多くの製品（軟膏、クリーム、歯磨き粉、液体エキスなど280種類を超える商品 2004現在）が流通しています。

日本では、薬用ハーブ製品はなかなか認められませんでした。1998年、厚生労働省による一部のハーブ製品の規制緩和により、日本でもエキナセアが輸入販売されるようになりました。

現在、日本でもエキナセアに関する研究が進み、抗菌作用、抗バクテリア作用、抗ウィルス作用、抗炎症作用などの効果が発見され、これらの効果から、気管支炎、尿路感染症、疼痛、むくみ、鼻粘膜の乾燥、アレルギーなどによいとされています。

しかし、結核や白血病、こう原病、HIV感染症、自己免疫疾患などの進行性疾患の人は、免疫不全を招く恐れがあるため使用を避ける必要があるとの報告もあります。

また、エキナセアはキク科植物のため、キクアレルギーの人や妊娠中、授乳中の方は摂取を控えたほうがよいとも言われています。

2. エキナセアを寄居町の特産品に・・・

寄居町内（秋山中間平地区・用土地区）で栽培されているエキナセアは、「エキナセア・プルプレア」という品種で、和名を「ムラサキバレンギク」といい、ネトル（イラクサ）・キャツクローとともに「**世界三大免疫植物**」の一つです。

この植物は、比較的水はけの良い土壌を好み、一般的には観賞用植物として栽培されています。

寄居町では、長年農業従事者の高齢化と後継者不足等に起因する遊休農地の解消対策を研究してまいりました。

2005年、寄居町はエキナセアの有効性に着目し、エキナセアが比較的容易に栽培でき、無農薬栽培が可能なこと、加えて健康食品としての需要も見込めること等の観点から、町内用土地区において先進的に栽培を行っている方の指導の下、町の新しい特産品として開発・研究するため、町内の農地1haを利用して、「エキナセア栽培実証展示ほ場」と位置づけ、試験栽培を行っております。

現在、町では、県内外研究機関・食品製造業者と協同し、商品開発と並行してエキナセア市場のマーケティング調査を実施しており、魅力あるエキナセアを広く消費者に発信してまいりたいと考えております。

なお、19年6月には、33戸の栽培農家を組織化して、「寄居町エキナセア生産組合」が発足いたしました。

今後、エキナセアを利用して町民の健康増進を図り、医療費の負担減を目標に事業を推進していく予定です。

寄居町長 津久井 幹雄
寄居町エキナセア生産組合 組合長 渡辺 秀之



町内：秋山中間平地区のエキナセアほ場（平成19年7月撮影）
（ほ場からは関東平野が一望できます。）